



沖縄高専だより

Okinawa National College of Technology



平成 22 年度入学式の模様

目 次

1. 校長より (沖縄伝統工芸の継承を果たすもの)..... 2	10. 図書館・保健室より 11
2. 総務主事・教務主事あいさつ 3	11. 地域共同テクノセンター活動紹介 12
3. 学生主事・寮務主事あいさつ 4	12. 学生会より..... 13
4. 後援会長・事務部長あいさつ 5	13. 寮生会より..... 14
5. 第1学年主任・第2学年主任より 6	14. 留学生紹介..... 15
6. 学科長より 7~9	15. 平成22年度 沖縄県高校総体結果一覧..... 16
○機械システム工学科 ○情報通信システム工学科	16. 平成22年度
○メディア情報工学科 ○生物資源工学科	九州沖縄地区国立工業高等専門学校体育大会結果一覧... 17
○総合科学科	17. オープンキャンパス参加者数の推移..... 18
7. 専攻科長より 9	18. サマースクール開催..... 18~19
8. JABEEへの取り組み状況 10	19. 平成22年度人事異動について..... 19
9. 学生相談室より 10	20. 平成22年度(後期)行事予定表..... 20



沖縄伝統工芸の継承を果たすもの

校長 伊東 繁

先日、大宜味村にある芭蕉布会館を訪ね、人間国宝であられる平良敏子氏とお会いしました。芭蕉布は沖縄を代表する伝統的な織物ですが、原料となる糸芭蕉の栽培、繊維の採取、数ヶ月の工程を経て、糸として機に掛けられるまでには大変な手間と労力を必要とするとの話を伺いました。その折り、私はこれまで手掛けてきた研究技術について話をさせていただきました。衝撃波を利用して果物や野菜、肉類を一瞬でスポンジ状にし、本来の栄養価を損なうことなく、食品加工の多様な工程に活用できるもので、植物の軟化にも応用できる技術です。平良さんはその技術に大変興味をお持ちになり、是非とも研究を続けてください、とおっしゃって下さいました。しかし考えてみますと、古（いにしえ）より人々の手によって継承されてきた伝統の技に、なにかしらの技術を差し挟むなど、大変おこがましいことだと思われました。一方で、作業する方の過剰な負担の軽減につながるのであれば、それも又すばらしいことではないかとも考えました。実用化できるかどうかは、まだこれから検討を進めていくところですが、人と科学技術の縁というのは思わぬところでつながっていくものだと、今回の出会いにあらためて有難く感じ入りました。

私は「科学技術の進歩というものは、日常生活を支え、未来に向けた発展の礎である」と、今年4月の入学式において、新入生の皆さんにお話ししました。

新しい科学技術は、日常生活のさまが時代とともに変わりゆくなかで、さりげなく私たちの身の回りに配備されています。しかしながら科学技術の進歩は、明日を迎えて大きく一足飛びに飛躍するというものではありません。技術者が身近なところから新技術の種を見出し、コツコツと改良を重ねていく過程で、多くの人の手を借り、やがて世界を席卷するような技術へと大きく成長を遂げていくのです。失敗から新しい技術が生まれることも多く、私たち自身が自分の目で見極め、進歩につながる小さな成功のヒントを拾い上げていくものなのです。

本校に入学し、技術者としての道を選んだ学生諸君には、しっかり学力をつけていく努力をするのと同時に、未来の科学技術の開発にすでに自らが関わっていることを自覚し、自分にしかない目を養ってほしいと思います。それは心と言えるかもしれません。学校生活はもちろんのこと、自宅で家族と過ごす時間、地域の人とふれあう時間—そこに介在するあらゆるものを見て、感じて、いろんな人の話を聞いてください。現代の社会がどうなっているのか、人々の暮らしはどのようなものか、世の中を知り、歴史を感じることが大切です。新しい科学技術は、決して、机上でつかめるものではないということを覚えておいてください。無論、基礎的な知識・技術は必要です。不得意科目があれば、是非、余裕のある夏休みに時間を掛けて、その克服に取り組んでほしいと思います。そして、しっかり身体も動かして体調を整え、有意義な夏期休暇をすごしていただきたいと思います。

冒頭に記した芭蕉布も然り、各地に根づく伝統工芸の技というものは、その土地固有の材料を活用し、多くの人の手を通して技術改良が重ねられ、長い歴史のなか脈々と現在まで受け継がれています。これからも工芸に携わる人たちに継承されていくことでしょう。科学技術の未来もまた、科学技術者の手に掛かっています。沖縄固有の資源を活用し、新しい技術を開発していくことは「沖縄にいる我々」の使命であるという技術者に多く出会えることを願っています。



総務主事あいさつ

総務主事 松栄 準治



教務主事あいさつ

教務主事 平山 けい

昨年度に引き続き総務主事を拝命致しました機械システム工学科の松栄準治です。総務主事は、校長を補佐して教育、学生指導および寮務に属さない諸々の仕事を担当しています。本校の組織編成、予算、規則、将来計画および評価に関する事項ですが、沖縄工業高等専門学校理念・目的・目標に基づいた教育がスムーズに実行できる環境を整えることが最重要課題です。このために校長、教務主事、学生主事および寮務主事と密な連携をとり学校運営の一翼を担って参ります。保護者や学生の皆様に関連する事項としては沖縄高専の中期計画の策定、日本技術者教育認定（JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education）の受審準備、高等専門学校機関別認証評価の受審が有ります。

今年度は、専攻科の二学年が揃い、高等専門学校として完成する年度となっております。保護者の皆様には、公開授業週間、オープンキャンパス、高専祭など機会を捉え、完成形となった沖縄高専をご見学頂き、教育改善のためのご助言を頂ければ幸いです。

1. 組織編成・予算関連について、予算配分委員会にて沖縄高専の活動が活発となるようより的確で効果的な配分を推進していきます。
2. 第二期中期計画（5年間）と中期計画に基づいた年度計画を策定し、ホームページに公開致しました。
3. 本平成22年度に高等専門学校機関別認証評価の受審（自己点検・評価活動）、来年の平成23年度にJABEEによる技術者教育プログラムを受審します。

これらの活動を通して、沖縄高専がより多くの優秀な学生を輩出する教育体制を構築し、地域および日本のものづくりに貢献できるようサポートして参ります。

沖縄高専は、人々に信頼され開拓精神あふれる技術者の育成により社会の発展に寄与することを理念としています。本校は、高校とはまったく違う高等教育機関です。学生の皆さんには、自分が高等教育機関である沖縄高専に通っているという意識をもっと強く持って学んで欲しいと思います。本校の教育目標は、深く専門知識を学び、職業に必要な知識や技術力を身につけることです。つまり、5年間で身につけた知識や技術を活かし、社会に貢献することが皆さんの大きな使命なのです。どれだけの学生が、沖縄高専に入学した時の新鮮でやる気に満ち溢れていた気持ちを覚えていますでしょうか？学生自身が、自分の夢や目指すものの達成のために少しずつモチベーションをあげながら前を見据えて5年間生活していかなければいけません。そして、本校に集った学生同士が目標達成のために互いに磨き合っていかなければなりません。

平成22年3月に卒業した2期生の就職率・進学率は、ともに100%を達成することが出来ました。3期生の就職状況は、不況のあおりを受け多少苦戦を強いられています。編入学も就職にあふれた学生が受けるため、倍率が高くなり、狭き門になっています。次年度以降も暫くこの状況が続くでしょう。1、2期生が、不断の努力で知識や技術を身につけ巣立って行ったのと同様、在校生の皆さんも努力が必要です。高専の学生であれば誰もが就職や進学できる甘い状況はなくなり、こつこつと努力を重ね、真面目に知識や技術を身につけた学生だけが就職・進学できる状況が続くと思います。どうぞ心して励んでください。

保護者の皆様には日頃から本校に対するご支援ご協力をいただきありがとうございます。進路に関しては、先に述べましたように暫くは厳しい状況が続くと思われます。お子様とのコミュニケーションを密にいただき、将来の進路等についても早いうちから親子でお話いただけるようお願い致します。また、今後とも本校の学生のために変わらぬご支援をいただけますようどうぞよろしくお願い申し上げます。





学生主事あいさつ

学生主事 眞喜志 隆



寮務主事あいさつ

寮務主事 網谷 厚子

今年度は7月の終わりから8月にかけて、本県で高校総体(美ら島総体)が開催され、全県を挙げて取り組んでおりました。本校も北部地域の担当校の一つとして、8月の第一週目に開催された宜野座村漢那ダムでのカヌー競技と、名護市21世紀の森体育館で行われた剣道競技の補助員として、学生と教職員が参加いたしました。また大会で配布する記念品づくりも行ないました。どちらの競技会も一週間の長丁場で、補助員としての参加も大変でしたが、歓迎の気持ちを持って全国から選手を迎えられたと考えております。

また、昨年度はインフルエンザの流行で学校閉鎖が重なり、学生会関連の活動が軒並み中止となってしまいました。今年は学生会主催の各種行事や、省エネ活動である「エコアクション21」等への取組みを積極的に行っていく予定です。

学校生活面では、昨年末より学内での盗難が発生しております。校内での注意喚起や盗難防止のための機器の設置等を行っておりますが、未然に防止することが難しい状況です。貴重品の管理については、今後とも注意喚起等の対策を行いますが、保護者の方々におかれましても、ご家庭でのご指導・ご助言をお願いいたします。

生活指導面では、服装・髪型・化粧等の身だしなみに関しては高等学校にある様な細かな規定はありません。しかしながら、行き過ぎた格好をしている学生も見られるようになってきているように感じております。今後、身だしなみについての指導にもより力を入れていくことを考えておりますので、ご家庭でのご指導等もよろしくお願いいたします。

沖縄高専寮には、全校生の6割を超える学生が入っています。入寮生数では全国高専で3番目、女子学生数では全国1です。「大きな寮」でたくさんのドラマが日々展開しています。寮務主事・主事補7名、事務系は看護師さんや指導員さんも含め8名、そして毎日の宿日直教職員2名で寮生・寮運営を支えています。

開設以来6年間寮務主事をされた濱田泰輔先生の後を継ぎ、2代目の寮務主事となりました。昨年度までの懸案も含め、今年度取り組みたいことは、主に次の3点です。

- 1 寮での安全確保・・・転落防止柵の設置
- 2 寮居室の改善・・・二人部屋を一人部屋に
- 3 静養室の充実

男子寮9階建て、女子寮8階建ての高層建築で、転落事故を防ぐ必要があります。また、男子60部屋、女子20部屋が二人部屋で、1年生の居室となっておりますが、すべて一人部屋にし、自己管理できる自律的な成長を促したいと考えました。さらに、寮内で、感染性の病気の蔓延防止のため、静養室の充実に取り組みます。

寮生たちにとっては、大きく成長するかけがえのない時期を過ごす場所です。寮生会の自治的活動も年々活発になってきています。すべての寮生が気持ちよく、楽しく、社会的規範意識や基本的生活習慣を身につけ、生涯にわたる友がつけられるよう、力を尽くしていきます。



美ら島総体での補助員参加(カヌー)

美ら島総体での補助員参加(剣道)





後援会長あいさつ

後援会長 石垣 克夫

平成22年5月より後援会長になりました。よろしくお願いいたします。沖縄高専後援会は学生の教育・研究活動・課外活動・進路指導・福利厚生などの支援をし、また会員相互の交流・連携を図ることを目的としております。昨年度卒業の2期生は進学・就職100%を達成し、この不況の中、学生のがんばりと学校関係者の方々の支援がすばらしい結果として現れました。来年は専攻科1期生が卒業します。5年生共々進路決定の重要な時期です。これまでの努力が良い結果となることを期待したいと思います。

さて、本年度は7期生を迎えたことで、本科5学年、専攻科2学年と900名近い学生になり、後援会員も最大規模となりました。今後も学生会との懇談や、学校関係者と連携をさらに進め、学生生活・進路支援などの後押しをして行きたいと考えています。

また、後援会では会員同士の交流の場として、地域ごとに北は北部支部から南は八重山支部まで8つの支部を設置し、それぞれの支部でボウリング大会やビーチパーティなどを開催しております。学生生活・寮やアパート生活・進学・就職・部活動などなど保護者同士の有益な情報交換の場にもなっております。多くの保護者の方々の支部会活動への参加をお願いしたいと思います。

学生のためのよりよい後援会活動は、会員お一人お一人のご協力で成り立っております。今後とも一層のご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、後援会活動に対するご意見ご要望等がございましたら沖縄高専後援会事務局(0980-50-0133)までお願いいたします。



事務部長あいさつ

事務部長 川満 信男

本年4月に、国立大学法人琉球大学から、沖縄工業高等専門学校(以下「沖縄高専」という。)の事務部長に着任いたしました川満でございます。

着任に当たり若干抱負を述べさせていただきたいと思います。

これまで県外の大学等(佐世保工業高等専門学校、佐賀大学、山口大学、総合地球環境学研究所)で経験してきたことを「沖縄高専」で発揮したい。

本校は第1期中期目標・計画(平成16年度～20年度)が終了し、第2期(平成21年度～25年度)がスタートし、早2年目に入っておりますので、第2期「中期目標・計画 年度計画」の実現に努力したい。

また、本年度は懸案事項として、

- ①専攻科棟の増築
- ②機関別認証評価の受審
- ③日本技術者教育認定機構(JABEE)による技術者教育プログラムの受審
- ④温室効果ガス排出抑制に有効性及び実効性のあ
る「エコアクション21」の認証・登録
- ⑤入学者の確保

等がありますので、早期実現に向けて努力したい。

また、「沖縄高専」産学連携協力会並びに後援会とも協力体制を密にしていきたい。

それから、本校の伊東校長が常日頃言っておりますように、教職員一丸となって「オンリーワン」の取り組みをし、沖縄高専の発展に貢献したいと考えております。

どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。



インターンシップ説明会の模様



第1学年主任より

第1学年主任 青木 久美

本年度の1年生は例年とは違うとよくいわれます。全体的に元気が良く、学校生活や寮生活にも早く慣れた学生が多いようです。自主的に行動していこうとする態度も身につけてくれたようです。

このことはいいことである反面、早いうちに緊張感を失ってしまったという見方もできます。規則正しい生活をおくらず、それが授業態度に現れている様子もあります。

沖縄高専の「学生」としての自覚を深めていくことができるように、また、犯罪やトラブルに巻き込まれないように、前期期間中、学校では、教務主事・学生主事による講話や、外部講師を招いての講演会（「薬物に関する講演会」「性に関する講演会」「サイバー犯罪に関する講演会」）などを実施して参りました。夏休み中は、ご家庭でのご指導をよろしくお願い致します。なお、寮や学校生活、勉学において問題があるようであれば、学級担任等にご相談ください。

将来、彼らが高い人格と優れた技術の両方を身につけて、世界に羽ばたいていくことができますように、今後ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



第2学年主任より

第2学年主任 成田 誠

6期生が『先輩』と呼ばれる立場になって4か月が過ぎようとしています。未だ上級生が3学年おりますが、既に彼らはこの高専を動かす存在になりつつあるように感じます。既成概念に囚われず行動をとることが随所に見られ、それらがやがて高専を大きく変えていくことになると思うからです。ときには問題を起こすともありますが、彼らとは『するな!』と規制するよりも『やってみろ!』と積極性を引き出す方向で接していきたいと考えます。

今後とも保護者の皆様方の御支援御協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



美ら島総体での補助員参加（剣道）



新入生歓迎球技大会



美ら島総体での補助員参加（カヌー）



機械システム工学科

機械システム工学科長
宮田 恵守

機械システム工学科では、様々な「材料」の加工から、「部品や機械」を組合せて高度な機能を持つ「システム」を構築するまで、「工学」的な手法を駆使してモノづくりのできる技術者を育成することを目的とした教育を行っています。専門的教育分野は、大きく『材料システム』、『設計システム』および『システム制御』の3分野に分かれています。それぞれの分野では、「どのような材料を選ぶべきか」、「どのように加工するべきか」、「コンピュータを利用した効率的な加工法はどのようなものか」、「要求される強度・機能・性能を満たすためにはどのような設計が必要か」、「どのようにして動かせば最も高い性能を発揮できるか」等について、第1学年の基礎的な内容から、第5学年での高度な応用まで、段階的に学習していきます。これらの教育に利用する設備も、レーザー加工機・マシニングセンター・大規模CAD・CAM・CAE等、たいへん充実しています。

現在本学科では、教員13名・技術職員4名で講義・実習を担当しています。学生数は第5学年44名、第4学年37名、第3学年38名、第2学年43名、第1学年40名です。昨年度開設された専攻科では第1学年12名、第2学年5名が学んでおり、完成年度を迎えました。地域の産業界ともより連携を深め、よりよい高専・学科を創るべく教職員一同努力していきたいと考えています。



情報通信システム工学科

情報通信システム工学科長
高木 茂

コンピュータ、インターネット、携帯端末などが発達し、社会生活や産業の基盤となっていることは周知の事実です。このため、情報処理技術者が広く求められています。情報通信システム工学科では、コンピュータの動作原理、コンピュータを実現する回路やLSIの作り方、コンピュータを動かすソフトウェア、音声・画像の処理法、通信やネットワーク技術、など幅広い分野の技術や知識を実践を通じて学びます。

専門分野の授業内容は広く深いものとなっています。聞いたことのない言葉や概念がたくさん出てきて難しいと感じるかもしれません。それは、新しいことを学ぶときに、常に遭遇することです。このような場面では心構えが最も重要です。素直な心を持ち、新しいことに興味を持ち、怠けず、あせらず、おごらず、あきらめず、逃げず、一步一步おろそかにせずに進むことです。常に進歩したいと思って下さい。そうすれば、いつか、誰にも負けない知識、技術が身につきます。そこで培われた、物事に取り組む姿勢は、どの分野に行っても役に立ちます。

1期生、2期生の就職率は100%でしたが、不況の影響で求人倍率は、22.7倍、17.8倍と減少傾向です。今年は、現在までの求人倍率が10倍とさらに厳しい状況です。厳しい状況の中で就職試験に1回で受かる学生、何回も失敗する学生と差が出ています。企業の面接担当は学生の特性を鋭く見抜きます。例えば、コミュニケーション能力（人の話や質問をよく聞き、それに対して自分の考えをまとめて表現できる）が備わっているか、目的意識を持った人材（目的や目標を持って勉強、部活、各委員会活動を行ってきたか）かを見極めようとしています。

高専の5年間は子供から大人への移行期間です。自分は何をしたいのか、将来どういう風になりたいのか、あるいはどういう風にはなりたくないのかをイメージし、日々の行動をしましょう。自分の人生は自分で設計するしかありません。知識や技術を学ぶことは夢を実現する最も有効な武器です。



メカトロニクス工学の授業



メディア情報工学科

メディア情報工学科長
角田 正豊

私達は生活のさまざまな場所でコンピュータに出会う時代に生きています。普通のコンピュータの形をしていないコンピュータも沢山あります。メディア情報工学科ではコンピュータの応用に焦点をおいて情報工学を専門的に学びます。本学科には3つの教育の柱があります。一つ目はコンピュータのハード/ソフトウェアを学ぶコンピュータ技術分野、二つ目はインターネットのしくみやセキュリティを学ぶネットワーク技術分野、三つ目は情報を音声、画像、映像など色々なメディアで表現しデジタル加工するコンテンツ技術分野です。コンピュータ分野で学ぶコンピュータの基礎技術は、他の二つの分野を学ぶための土台にもなっています。本学科では学校での通常の教育のほかに、情報処理技術者などの資格取得やパソコン甲子園などのコンテストへのチャレンジも積極的に支援しています。

この4月に玉城龍洋准教授が宇部工業高等専門学校から着任しました。玉城先生はアルゴリズムとデータ構造などプログラミングの基本的技術を中心に担当します。先生は自動車の流れ(渋滞解析)についての研究に従事しています。

今年3月に本学科から33名が卒業しました。33名のうち22名が県内外の企業に就職、11名が大学(3年次編入)や専攻科などに進学しました。これからも社会で実践的に活躍できる技術者の育成に努めてまいります。ご理解とご協力を引き続きよろしくお願いします。



生物資源工学科

生物資源工学科長
三枝 隆裕

沖縄には、亜熱帯性気候特有の珍しい動植物が生育しています。これら沖縄独特の生物資源について特性や機能性などの研究を行って学生の能力を伸ばす一方、これらの知見を地域産業に活用していただくため「生物資源工学科」が沖縄高専に設立されました。

本年度は、1期生9名が専攻科2年生となり、全ての学年が初めて揃いました。そこで、生物資源工学科の学生がどのような研究を行っているかを少しご紹介したいと思います。本科5年生が行っている「卒業研究」のテーマとしては、ウコン・ドラゴンフルーツ・シークワサー・モズク・ノニ・サツマイモの葉・ハイビスカスの花などが持つ機能性の研究、サンゴ・植物・昆虫類の環境適応に関する研究、キノコ・乳酸菌・泡盛発酵に関する研究、鶏卵での抗体生産・微生物の遺伝子解析などの研究を行っています。また、専攻科生による「特別研究」では、「卒業研究」をステップアップした内容で研究を行っています。

研究に関しましては、沖縄の企業様からの提案テーマ、共同研究テーマに取り組ませていただき、さらには担当した学生をそのまま就職させていただくことも考えております。

今年は、世相を反映しまして5年生の就職、進学ともに競争率が高く非常に厳しいものとなっております。就職希望11名、進学希望29名、全力で立ち向かい日々前進している所です。これからも、皆さまのご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



メディア情報工学科の授業風景



生物資源工学科の授業風景



総合科学科

総合科学科長
小池 寿俊

皆さんは2次方程式の解の公式を覚えていますか？ 忘れてしまった方も多いでしょうが、先日話をしたある保護者の方のように、「2次方程式の解の公式だけは覚えている」とおっしゃる方も少なくないでしょう。「私は2次方程式もろくにできないけれども、65歳になる今日まで全然不自由しなかった」と言った高名な作家がおられます。その影響もあってか、2次方程式の解の公式は現行課程の学習指導要領（いわゆるゆとり教育）においては、中学校の数学からなくなってしまいましたが、この度の改訂によって新課程で復活しました。

沖縄高専では、各学科に共通な学問の基礎や社会人に求められる教養を身につけることを目的として、一般科目群が設置されており、我々総合科学科の教員は主にそれらの一般科目の授業を担当しております。エンジニアを養成する本校においては、たとえ学校以外の実生活で2次方程式を使うことがなくても、それを学ぶことに疑問を抱く人はもちろんおられないでしょう。しかし、必要性や有用性が目に見える形で認められないとしても、一般科目の重要性に変わりはありません。

保護者の方の中には、社会人となった現在、専門や業務に関連しない科目、受験で必要とされなかった科目こそ、学生時代にもっと勉強しておくべきだった、と感じておられる方も多いはずです。最近書店では中学や高校の科目の学び直しの本が多数目に付き、そのように感じる人の多いことをうかがわせます。

「もっと勉強しておけば良かった」、この言葉は学校という学びの場から離れた人間にとっては実感ですが、実際にその場にいる学生にとっては遠い言葉のようです。しかし、むしろ直接役に立つかどうか分からない内容を含んだ科目だからこそ、学生時代に触れておかなければ一生縁がないままになってしまう、ということもできます。高校と大学とを合わせたものと比べると多いとは言えない高専の一般科目だからこそ、学生には勉強に力を注いでもらいたいと思っています。



専攻科長より

専攻科長
知念 幸勇

沖縄高専専攻科の1期生は現在、就職、進学に取り組んでおり、修了予定者27名中12名が大学院進学、15名が就職希望です。大学院進学では7～8月が入試時期で、まだ始まったばかりですが、すでに推薦入試での内定者が数名でいます。大学院進学では大学院大学（奈良先端、北陸先端）、大学付属研究所（静大電子工学研究所）、技術科学大学（豊橋、長岡）など、学部学生を持たない機関や専攻科生を積極的に受け入れている大学院への進学が比較的スムーズに進んでいます。また、内定後、競争率の高い研究室に配属されるなど、3年次編入からの大学院進学という進路に比べて、専攻科進学の優位性があるように思われます。

就職はこれまで15名中12名（80%）が内定しています。一般に、大学生の場合、就職試験では自由応募で数十倍から100倍の高い競争率を勝ち抜いていかなければなりません。本科生を積極的に受け入れている企業では、専攻科生も大卒待遇の推薦枠で受け入れて頂いていますので、就職も大学生に比べ比較的良好な状況です。内定後の配属先も大卒と同等の内容です。

専攻科設置前より、専攻科進学のメリットとして大学3年次編入に比べ学費が安く、奨学金の採用率が高いことをアピールしてきました。実際に、2期生の日本学生支援機構奨学金採用率も、1期生と同様に100%で、申請者27名全員が採用されており、専攻科生の奨学金採用率はほぼ100%となっています。経済的に大学や大学院進学を諦めていた学生には専攻科進学を選択肢として頂きたいと思います。

専攻科生は大学評価・学位授与機構の学位授与試験に合格すると学士（工学）の学位が授与されます。1期生はこれまでの学修内容をまとめた学修成果レポートを10月初旬に同機構に提出します。機構は11月上旬に学位審査会に審査を委託し、学位審査会の専門委員会・部会専門委員による小論文試験問題が作成され、12月に小論文試験が実施されます。1月に専門委員の判定、2月に学位審査会の判定を経て3月に可否結果が通知されます。

学位取得試験は沖縄高専にとっては初めての経験ですので、専攻科臨時委員会ではこれまで、他高専の取り組み状況などを調査して、専攻科生・教職員に向けての報告会を5回ほど開催しました。多くの高専から異口同音に言われたことは、学修成果レポートは、学生自らの理解した内容で、自身の考察ならびに結論を記述することと、小論文試験は学修成果レポートの内容を十分理解して、学力として定着しているかが問われるので、専門基礎学力、論理的思考力、批判的考察力を高め、手書きの文章構成力をつけること、などです。長文の手書きはワープロ世代の学生にとって苦手な試験ですが、書ききれずに解答用紙に空白を残す、などの初歩的なミスを避ける必要があります。日頃から手書きのノートなどで、専門用語の解説、キーワード科目に関連する専門基礎知識、成果レポートの数式の展開、実験方法・結果・考察などのまとめの練習を続けながら、12月の小論文試験に臨んでいただきたいと思います。

JABEE への取り組み状況 — 当たり前のことの難しさ —

JABEE 対応委員長 比嘉 勝也

沖縄高専では平成 23 年に JABEE 受審のために JABEE 委員を中心に活動を行っています。さて JABEE とはいったいなんですか。実は日本技術者教育認定機構 (Japan Accreditation Board for Engineering) という団体のことです。この団体は、日本にある様々な技術系分野の学協会と連携して大学・高専が行っている教育内容が社会の要求する知識や能力の水準を満たしているかを審査し、それが成功している教育機関に対して技術者教育プログラム校としての JABEE 認定を行っています。

沖縄高専が JABEE 認定されるならば、学生の諸君が学んでいる教育内容が他の国内および海外の大学・教育機関に対しても質・量とも引けを取らない立派な内容であることを示しているのです。これは大切なことです。JABEE 認定は教育の質と量の保証なのです。衣食住すべてにおいて品質の保障があれば安心して生活できますが、教育にも実は品質の保証があるのです。沖縄高専も平成 23 年度に JABEE 審査を受けるのですが、それはまるで学校が試験を受けるようなものなのです。

JABEE 認定 (合格) ための準備とは以下の通りになります。(1) 沖縄高専が社会が求める使命と目的を持ち示すこと (2) その使命と目的に沿った教育目標を持ち、教育成果 (学生の成績や就職進学状況) が教育目標と JABEE が求める教育成果を満たすこと (3) 教育の内容が継続的に改善する仕組みを持つこと (4) 入学学生の質や教員・設備・学生へのサポートのなどが教育目標と結びつけてよく検討されていること、などです。これらが沖縄高専の様々な仕組みの中に有り、それがしっかりと機能していることを示すことが JABEE 審査 (試験) となります。しかしよく考えてみると、これらは教育機関として当たり前の事ばかりではないでしょうか。

学生諸君に対して社会が要求する質と量の教育を行い、それらが卒業時に学生諸君が身につけていることが重要なのです。教育目標やプランを吟味して教育内容を構成し、実行し、内容を学生諸君の成績や成果を社会状況を通してチェックし、内容が十分でないところを改善し足りない部分を補ってまた実行する。これらを常に行い、検討内容や結果を学生や社会に対して説明する。この教育機関として当たり前のことが、今の沖縄高専に求められている難しい課題なのです。

学生相談室より

学生相談室長 (併) メディア情報工学科准教授 西村 篤

学生相談室は、学生一人一人がより充実した学生生活を送ることを、学生の人権を守るという視点からサポートするための組織です。そのために、学生相談室では「学生相談」および「特別支援」という 2 つの役割を担っています。勉強、進路、恋愛、健康、対人関係、家族についてなど、相談の内容は問いません。困った時は気軽に相談室を利用することができます。相談室は学生のことで悩んでいる保護者や教員も利用できます。学生相談室では、学外から専門家の先生をお招きして、学生との相談にあたってもらっています (臨床心理士 2 名がそれぞれ週 1 回来校)。また、学生相談室では、学生の多様な個性に合わせたきめ細かい学生支援体制の充実に向けて、特別支援制度の整備を進めていますので、特別支援関連の相談も受け付けています。もちろんすべての相談について、相談内容の秘密は守られます。詳しい利用案内は、本校のウェブサイト <http://www.okinawa-ct.ac.jp> (トップページ> 教育・学生生活> 学生相談室) をご参照下さい。



学生相談室内の様子

図書館より

図書館は教育・研究活動を支援する施設として、主に学生を中心とした本校構成員の「自学の場」として活用されています。

館内には情報学、工学、自然科学等の専門書を中心として、学術雑誌、文庫本、DVD や CD-ROM などの視聴覚資料、英語多読資料、全国の高等専門学校関連資料などを所蔵しており、蔵書目録はインターネットから検索することができます。

平成 20 年度より土曜日の開館も開始され、本校の教職員・学生のみならず、広く一般の方々にも開放しています。どうぞお気軽にご利用ください。



図書館職員（左から又吉、照屋、津波古）

○図書館の開館時間 (<http://www.okinawa-ct.ac.jp/toshokan/> も併せてご覧ください)

【通常期】平日:8:40~20:00 土曜:9:00~17:00 日曜・祝祭日:休館

【休業期】平日:8:40~17:00 土日・祝祭日:休館

○座席数:108席(延面積:740㎡)

○蔵書冊数:約5万3千冊(うち洋書約1万6千冊)

○雑誌:約500種(継続購入約90誌)

○新聞:8紙(うち英字新聞2紙)

○学生への年間貸出冊数:41,090冊(平成21年度実績)

○学外者への貸出:申請書に必要事項を記入し、身分証の提示、写真(3×2.5cm)の提出が必要です



保健室より — 熱中症に注意 !! —

青い空に照りつける太陽、高気温・高多湿は熱中症が起こる好条件と言えますが、この炎天下で熱中症をどう防ぐかが課題です。「熱中症について」は保健室だよりでメール発信していますが、ここでは「熱中症予防 8 箇条」について紹介します。

1、知って防ごう熱中症

2、暑いとき、無理な運動は事故のもと

3、急な暑さは要注意

4、失った塩分と水分を取り戻そう

5、体重で知ろう健康と汗の量

6、薄着ルックでさわやかに

7、体調不良は事故のもと

8、あわてるな、されど急ごう救急処置



保健室内と看護師（左から武村、岸本）



自分の事は自分で守ることの意識を高め、日頃から健康管理を怠らない様にしましょう。

保健室では看護師 2 名が在室し、学生のケガや疾病に対する応急処置をはじめ、学生の健康管理の支援・指導を行っています。月に一度学校医（産業医兼任）の来校が有り、第 2 木曜日 14:30~16:30 の間、健康相談に応じています。心の相談日は、毎週月曜日と木曜日 15:30~18:30 の 3 時間を学生のための相談日になっています。保健室はそれらのインターカーとしての役割を担っています。特に心の悩みは自分だけで抱え込まず、専門家に心の声を話してみませんか？保健室もサポートします。学生みんなが支え合い、心身健康で学校生活を楽しく過ごして頂きたいと願っています。

(保健室への連絡: 直通 0890-55-4054 看護師 武村クニ子、岸本尚子)

地域共同テクノセンター活動紹介

沖縄高専では、地域共同テクノセンターを窓口として、地域社会との連携・交流の推進や教育研究の充実ならびに人材育成に取り組んでいます。平成20年に名護市、平成21年には浦添市との間で産業振興や人材育成等を目的として連携に関する協定を締結し、今後とも連携推進への協力を行っていきます。事業として、沖縄高専施設見学会(本学)、沖縄高専フォーラム・技術交流会(那覇市)、沖縄高専北部地域産学連係フォーラム・技術交流会(名護市)を各地で開催し、産業界との交流を図り、また、3D-CAD等各種講習会の開催、地域イベント(産業まつり等)への参加を通して、沖縄高専の教育研究を地域へ発信しております。

理科教育支援として、本島および離島地域の小中学校等への出前授業を積極的に実施し、ものづくりの面白さと科学への興味をもってもらうお手伝いも行っております。



沖縄の産業まつり



中学校での出前授業



沖縄高専フォーラム



小学生向け科学授業



公開講座



企業向け施設見学会

学生会より

学生会長 情報通信システム工学科4年
上原 大輝



今年度より学生会長を務めております。
情報通信システム工学科4年の上原大輝と
申します。

今年度の学生会は「魅せます、沖縄高専」
をテーマとして掲げ、学生会がより学生生
活に魅力を感じられるような沖縄高専を作ることを目標に
活動しております。

今年度からは、例年通りの行事に加え新入生歓迎球技大会
や七夕祭、留学生歓迎会の共催など、新しい行事を増やし、学
生同士の交流や日々の生活に刺激を与えることで、豊かな技
術者育成の一助となるよう、学生会一同精進してまいります。

役職	氏名
会長	上原 大輝
副会長	清水 正義 金城 匡
総務局長	宇江城 貴仁
広報局長	一ノ瀬 翔吾
風紀局長	親泊 由理
会計局長	比嘉 良鳳
渉外局長	伊波 幸紀

平成22年度 沖縄高専学生会執行委員

新入生歓迎球技大会

新一年生を歓迎するための球技大会を
行い、他学年間での交流を深めました。



七夕祭



沖縄高専では毎年、七夕の時期にあわせレストラン前
に七夕の笹と短冊を飾ります。それに加え今年度は、
体育館アリーナで舞台祭として、バンド演奏やクイズ
大会を行ないました。



高専祭

各学級が一つとなり、劇や映画、テーマパーク、
屋台、お化け屋敷などなどの非常にクオリティの
高い出し物を行うという、沖縄高専の一大イベン
トです。今年度もすでに、高専祭実行委員会を中心
に準備が進められています。

第6回高専祭も沖縄高専の魅力を十二分に発揮
したものとしていきます。

皆様のご来場をお待ちしております。



寮生会より



男子寮長
メディア情報工学科 4年
座喜味 悠介

平成22年度の男子寮長の座喜味です。それまで寮生会で活動をしたことがなく、いきなり男子寮長にされてしまい、初めは右も左もわからずバタバタとしていました。さらに保安委員長も兼任しているため最初は仕事がとても忙しかったです。予算を組んだり、レストランの棚の設置について話し合いをしたりと難題なことばかりでした。しかし、予算が議会で可決されたり、レストランに棚を設置し、取り締まりを行うことで荷物放置が無くなった時は達成感であふれ、やってよかったと思うと同時に、皆さんに支えられているからできたという気持ちでいっぱいです。そんなみなさんへの感謝の気持ちを忘れずにこれからの寮生会の運営に励んでいきたいと思いますので、これからも応援よろしくお願いします。



女子寮長
メディア情報工学科 4年
伊波 香純

女子寮長の伊波香純です。今年度も女子寮生は約140名と大勢で寮生活を行っています。これだけの大所帯で共同生活していくと、意見の食い違いや認識の違いなどの問題がたくさん出てきます。それを解決するために、女子寮では女子寮生集会を開いて意見交換や話し合いを行ったり、寮生活での注意や見直しなどを行ったりしています。寮生活を通して、自立性や協調性、思いやりなど様々な事を学び、今後の社会生活に活かせるような学生寮を目指しています。

私自身まだまだ至らないところもあると思いますが、女子寮生全員が快適で楽しい生活を送れるよう頑張りますので、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

寮生会活動報告

沖縄高専の学生寮も今年度で7年目を迎えました。4月4日(日)に開寮式、新入寮生対面式により寮生活がスタートしました。寮生は本科、専攻科も含めて551人と昨年度よりは少ないものの定員人数のいっぱいまでとなっています。4月は主に新寮生に対して、寮生活の指導が主な活動となりました。4月19日(月)の全寮生で学生寮避難訓練では、寮生活の安全面について確認を行いました。5月19日(水)には今年度初となる全体清掃、翌日の5月20日(木)には昨年度の決算と今年度の予算案を承認する寮生総会を開催しました。6月16日(水)に2回目となる全体清掃を行いました。また、7月4日(日)にはオープンキャンパスでの寮内見学ツアーを行い、同月20日(火)に3回目の全体清掃を行いました。毎年7月に企画広報委員会により開催されていた夏の寮生祭は、美ら島総体の関係で開催しませんでした。

平成22年度前期の寮関連行事

4月 3日(土)	入寮開始、入寮式(1年)
4日(日)	開寮式、新入寮生対面式
19日(月)	学生寮避難訓練
5月19日(水)	全体清掃
20日(木)	寮生総会
6月16日(水)	全体清掃
7月 4日(日)	オープンキャンパス
7月20日(火)	全体清掃

オープンキャンパス 平成22年7月4日(日)

例年同様、寮内見学ツアーや、寮生活を紹介するパネル展示を行いました。学生寮内を知ることができるこの機会に、沖縄高専へ入学を志す中学生のみなさんをはじめ多くの方が見学されました。また、昼食時間帯には、寮食の試食会も行われ、多くの来場者が体験されていました。

留学生紹介 — 留学生生活 —



情報通信システム工学科 3年
フォモ イェットガング デスモンド マチウ（カメルーン出身）

ポルトガル語の「リオ, ドス, カマロエス」、日本語で「エビ川」という名前から「カメルーン」という名前がでました。最初カメルーンに着いたのはポルトガル人です。その後はドイツの植民地でしたが、現在は、フランス語と英語が公用語です。

日本に留学するのは、小学校からの夢でした。日本では、英語はほとんど使われていない言語ということが分かったとき、日本に留学ができなく、夢も実現できないと思い始めました。

日本に来たばかりのころは、日本語が話せなく、家族と離れ、生活送りづらかった。日本語が少しできるようになったとき、夢が実現できるように見えました。そこで、何があっても、せっかく日本に来たので、情報通信分野を専攻して、高度な技術を学んでいきたいです。

沖縄高専を通して、情報通信の世界で歴史の新しいページを開きたいと思います。

留学生紹介 — 留学生生活 —



メディア情報工学科 3年
ヘンドラ グントウル（インドネシア出身）

私はインドネシアから来ました。ヘンドラ・グントウルといいます。よろしくお願いします。皆さんがインドネシアと聞いたら、何を思い浮かびますか。半分以上の人はインドネシアといったら、まずバリ島を思い浮かべます。時々、バリ島がインドネシアにあることが分かりません。ただ、バリ島だけを知っています。でも、インドネシアでは、バリだけではありません。他の有名なところもいっぱいあります。例えば、ボロブドゥール遺跡や、ブナケン島があります。

初めて東京に来た時、日本語が分からなくて困っていました。日本の文化もあまり分かりませんでした。良かったことに先輩が優しく教えてくれました。よく使われている表現や文化や機械の使い方などです。そのおかげで、日本の生活が慣れていました。

今年から、3年間沖縄高専で学ぶことになっているので、皆さんと仲良くなりたいとおもいます。これから、いい思い出を作りましょう。

平成 22 年度沖縄県高校総体結果一覧

平成22年度沖縄県高等学校総合体育大会における本校の競技別の結果は以下のとおりでした。会場まで応援に来ていただいた保護者並びに関係者の皆様に感謝いたします



競 技	成 績		会 場
バスケットボール(男子)	1回戦勝利(対戦校:沖縄水産)、2回戦敗退(対戦校:前原)		1回戦 コザ高校 2回戦 前原高校
バスケットボール(女子)	1回戦敗退(対戦校:開邦)		中部商業高校
弓道(男子)	個人戦	【73名中】長嶺(38位)	奥武山弓道場
弓道(女子)	団体戦	12チーム中12位	
	個人戦	【85名中】島袋(24位)、新垣(34位)、高宮(47位) 親泊(47位)、宮嶋(58位)、金城(58位)	
剣道	団体戦	1回戦敗退(対戦校:豊見城)	21世紀の森体育館
	個人戦	宮川1回戦敗退、平良1回戦敗退、比嘉2回戦進出	
ハンドボール	1回戦敗退(対戦校:首里)		八重瀬町東風平運動公園体育館
サッカー	1回戦勝利(対戦校:昭和薬科)、2回戦敗退(対戦校:具志川)		具志川高校
テニス(男子)	団体戦	3回戦進出	奥武山公園庭球場
	ダブルス	宮下・増田2回戦進出 金城・世嘉良2回戦進出 内間・鉢嶺1回戦敗退	
	シングルス	金城2回戦進出 増田1回戦敗退	
テニス(女子)	ダブルス	松井・玉城1回戦敗退	
	シングルス	松井1回戦敗退、仲地2回戦進出	
卓球(男子)	団体戦	予選敗退	宜野湾市立体育館
	個人戦	吉田4回戦進出 新田3回戦進出 與那國4回戦進出 松田1回戦敗退	
卓球(女子)	団体戦	予選敗退	
	個人戦	町田3回戦進出 山城2回戦進出 白久1回戦敗退 田口3回戦進出	
バドミントン(男子)	団体戦	1回戦敗退	糸満高校体育館
	ダブルス	屋良・玉城3回戦進出 平安山・倉山1回戦敗退	
	シングルス	屋良2回戦進出 玉城3回戦進出	
バドミントン(女子)	団体戦	ベスト16	
	ダブルス	瑞慶覧・久貝2回戦進出 富山・山川2回戦進出	
	シングルス	瑞慶覧ベスト16 久貝1回戦敗退	
陸上(男子)	100m 予選2組中本(6位) 予選10組川満(6位) 1500m 予選4組野村(12位) 5000m 予選2組野村(途中棄権) 3000m障害 予選2組野村(6位) 決勝野村(棄権) 走高跳 決勝中本(14位) 奥平(記録なし) 砲丸投 決勝與儀(10位) 近藤(13位) 大城(19位) 槍投 決勝宮平(15位) 金城(24位) 3000m オープン米谷(64位)		県総合運動公園 陸上競技場
陸上(女子)	100m予選2組田中(4位) 準決勝2組田中(7位)		
自転車	宮城 ロードレース(チャンピオンレース62,4km) 15位 スクラッチ(10km) 10位 タイムトライアル(1km) 12位 インディビデュアルパーシュート9位		県総合運動公園 自転車競技場

※赤字は沖縄高専を表します。

平成 22 年度九州沖縄地区国立工業高等専門学校体育大会結果について

平成22年7月9日(金)～18日(日)の期間中開催された「平成22年度九州沖縄地区国立工業高等専門学校体育大会」において、本校からバスケットボール部(男女)、ハンドボール部、水泳部、硬式テニス部(男女)、硬式野球部、サッカー部、卓球部(男女)、陸上競技部(男女)、男子バレーボール部、バドミントン部(男女)及び剣道同好会が出場し、九州地区の各高专と対戦しました。

大会では、各部・同好会ともに健闘し、日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。特に硬式テニス部は男子団体戦、女子シングルスとともに準優勝を飾り、8月下旬に石川県で開催される全国大会に出場する運びとなり、更なる活躍が期待されます。



硬式テニス部(男子)



平成 22 年度九州沖縄地区国立工業高等専門学校体育大会結果一覧

競 技	競技結果			会 場	備 考
バスケットボール(男子)	予選リーグ 沖縄80-66都城 沖縄74-68北九州	決勝トーナメント 沖縄60-61有明		熊本県立総合体育館	ベスト4
バスケットボール(女子)	予選リーグ 沖縄45-37久留米 沖縄72-33都城	決勝リーグ 沖縄44-47有明 沖縄59-30北九州		熊本県立総合体育館	準優勝
ハンドボール	予選リーグ 沖縄23-35北九州 沖縄28-18鹿児島			山鹿市立総合体育館 鹿央町公民館	
水泳	予選 男子100m平泳ぎ宮城18位 男子100m背泳ぎ中島16位 男子200m平泳ぎ宮城棄権 男子200m背泳ぎ中島棄権	タイム決勝 男子200m個人メドレー具志6位 決勝 男子100m具志5位	総合 沖縄10位(得点7.0)	八代市民プール	
テニス(男子)	団体戦 沖縄3-0都城 沖縄0-3鹿児島 沖縄2-1大分	シングルス 名幸6-0八代 名幸6-1鹿児島 金城6-2都城 前蔵6-1佐世保 前蔵6-2都城	ダブルス 知花・前蔵7-6熊本 知花・前蔵0-6鹿児島 糸数・比屋根4-6北九州 仲村・金城4-6有明 名幸・金城6-0大分 名幸・金城6-1鹿児島 名幸・金城6-1北九州 名幸・金城1-6鹿児島	熊本県民総合運動公園 パークドーム	団体戦 準優勝 (全国大会出場) ダブルス 名幸・金城 3位
テニス(女子)	シングルス 宮城6-0大分 宮城0-6都城 仲地6-0久留米 仲地6-1鹿児島 仲地7-5有明 仲地1-6都城	ダブルス 与那覇・宮城6-0久留米 与那覇・宮城5-7有明 松井・玉城2-6佐世保			シングルス 仲地 準優勝 (全国大会出場) ダブルス 与那覇・宮城 3位
野球	1回戦 沖縄6-4熊本(八代)	2回戦 沖縄6-7大分		県営八代運動公園野球場	
サッカー	1回戦 沖縄2-1都城(前半2-0 後半0-1) 2回戦 沖縄0-2久留米(前半0-1 後半0-1)			熊本高等専門学校 八代キャンパスグラウンド	
卓球(男子)	予選リーグ 団体戦 沖縄0-3有明 沖縄0-3佐世保	シングルス 眞玉橋0-3佐世保 新田0-3北九州 金沢0-3有明 松田0-3大分	ダブルス 眞玉橋・阿野0-3大分 眞玉橋・新田1-3熊本	八代市東陽 スポーツセンター	
卓球(女子)	団体戦 沖縄1-2都城	シングルス 田口3-1都城 白久0-3北九州 山城0-3佐世保	ダブルス 町田・山城1-3八代 白久・田口1-3都城	八代市東陽 スポーツセンター	
剣道	個人戦 比嘉0-1佐世保 宮川0-2鹿児島			熊本高専八代 キャンパス第1体育館	
陸上(男子)	100m予選 1組 川満8位 800m予選 1組 野村9位 1500m予選 2組 米谷14位 500m決勝 米谷24位 4×100mリレー決勝 沖縄失格	2組 佐事8位 3組 中本5位	走高跳 決勝 奥平記録なし 砲丸投 決勝 與儀4位 近藤5位 大城10位 やり投げ 決勝 宮平3位 金城11位	大分市営競技場	
陸上(女子)	100m 予選1組 田中2位 決勝 4位				
バレーボール(男子)	予選リーグ 沖縄20-25/18-25熊本(八代) 沖縄9-25/12-25佐世保			久留米総合 スポーツセンター 久留米工業高等専門学校 体育館	
バドミントン(男子)	団体戦 沖縄2-1熊本 沖縄0-3有明	シングルス 平安山0-2八代 金城0-2有明 屋良1-2北九州 天久1-2有明	ダブルス 伊波・屋良0-2久留米 天久・倉山0-2有明 屋良・玉城2-0大分 屋良・玉城2-0北九州 屋良・玉城0-2都城	うきは市立総合体育館	
バドミントン(女子)	団体戦 沖縄2-1都城 沖縄0-2有明	シングルス 當山0-2都城 大濱0-2北九州 瑞慶覧2-0有明	ダブルス 大濱・當山0-2都城 瑞慶覧・久貝2-0八代 瑞慶覧・久貝2-0熊本 瑞慶覧・久貝0-2有明	久留米高専第一・ 第二体育館	団体戦 3位 ダブルス 瑞慶覧・久貝 3位

※赤字は沖縄高专を表します。

オープンキャンパス参加者数の推移について

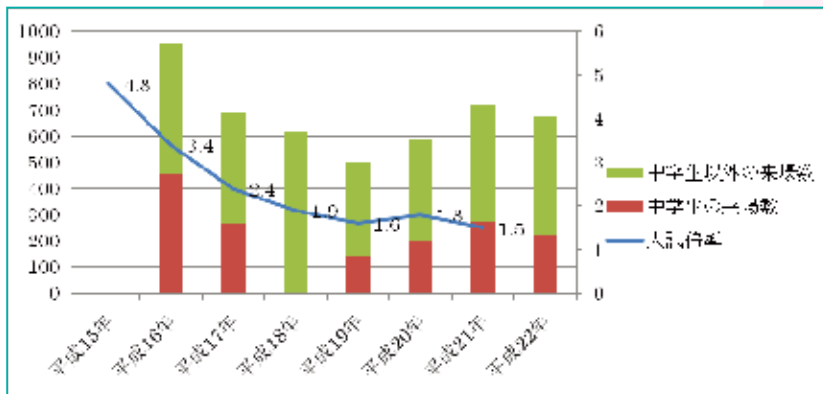
- ◆ 平成16年度…952人【中学生(3年生) 457,保護者 403,教員 89,その他 3】
- ◆ 平成17年度…690人【中学生 266,保護者 275,教員 50,その他 99】
- ◆ 平成18年度…617人【封筒配布者】(全体)
- ◆ 平成19年度…362人【受付確認数】(うち中学生数 136)
- ◆ 平成20年度…583人【中学生 201,保護者 222,教員 3,その他 157】
- ◆ 平成21年度…717人【中学生 272,保護者 269,その他 176】
- ◆ 平成22年度…672人【中学生 224,保護者 310,その他 138】

※平成18年度については、細かい受付をせず、封筒配布数だけで積算しているため、内訳が出ていません。

学生課 教務係



参加者数推移



サマースクール開催

本校では、7月31日(土)・8月1日(日)に「平成22年度サマースクール」を開催しました。サマースクールは、中学生を対象に模擬授業を体験することで沖縄高専への理解を深め、進路選択に役立てることを目的としています。今年度は208名の中学生に参加していただきました。参加して下さった中学生の皆様、保護者の皆様ありがとうございました。

- 【機械システム工学科】鍛冶屋体験・スターリングエンジンの制作……………45名参加
三次元機械設計・ジャイロ2輪車
- 【情報通信システム工学科】マイコン・プログラミング・電子回路体験……………55名参加
- 【メディア情報工学科】専門実習入試体験……………47名参加
- 【生物資源工学科】薄層クロマトグラフィー・酵素実験……………61名参加
- 《数学》…「放物線を中心とした2次曲線の話」……………84名参加
- 《社会》…「地図と空中写真から読む地域環境」……………15名参加
- 《国語》…「表現のワンポイントレッスン」……………44名参加
- 《英語》…「絵本から読み始める。英語多読の紹介」……………65名参加



英語（一般科目）の授業



社会（一般科目）の授業



数学（一般科目）の授業



国語（一般科目）の授業

平成 22 年度人事異動について

< 4 月異動 >

【採用】

校長	伊東 繁
総合科学科 助教	宮城 元
事務部長	川満 信男
技術支援室 技術職員	新田 保敏
技術支援室 技術職員	大嶺 幸正

【転入】

メディア情報工学科
准教授 玉城 龍洋 (宇部高専)

学生課教務係 主任
栗延 敏徳 (高専機構本部学務課)

【昇任】

総合科学科 准教授 大石 敏広

【転出】

琉球大学財務部資金管理課資金・支出係長
仲山 晋一 (学生課教務係長)

< 7 月異動 >

【転入】

総務課人事係長	稲福 太一 (琉球大学医学部付属病院総務課職員係主任)
総務課財務係長	増永 誠 (久留米高専総務課用度係長)
総務課契約管理係長	中村 範章 (琉球大学工学部総務係主任)
学生課学生係長	森山 喜代美 (琉球大学教育学部学務担当主任)

【配置替】

総務課図書情報係員	比嘉 信 (学生課教務係員)
総務課財務係員	與那嶺 岳也 (総務課契約管理係員)
学生課学生係員	伊地 信人 (総務課図書情報係員)

【転出】

琉球大学医学部附属病院総務課職員係長
知念 芳和 (総務課人事係長)

琉球大学医学部附属病院経営企画課企画・分析係長
鈴木 極 (総務課財務係長)

琉球大学医学部学事係
坂下 和也 (総務課契約管理係長)

琉球大学学術国際部国際課専門職員
銘苅 真理 (学生課学生係長)

琉球大学監査室業務監査係員
古謝 有紗 (総務課財務係員)

琉球大学医学部附属病院経営管理課病院用度係員
大里 祥子 (学生課学生係員)

サマースクール開催



鍛冶屋体験 (機械システム工学科)



ジャイロ2輪車 (機械システム工学科)



薄層クロマトグラフィー
(生物資源工学科)



電子回路体験 (情報通信システム工学科)



マイコン体験 (情報通信システム工学科)



酵素実験 (生物資源工学科)



コンピュータを用いたコンテンツ授業
(メディア情報工学科)



コンピュータを用いたプログラミング授業
(メディア情報工学科)

平成22年度(後期)行事予定表

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1	金 後学期開始 臨時休業日	1	月	1	水 後学期中間試験	1	土 冬季休業 元旦	1	火 外国人学生対象第3学年 編入学試験合格判定	1	火 完全閉寮 臨時休業日
2	土 開寮	2	火	2	木	2	日	2	水 北部フォーラム(予定)	2	水 学力及び帰国子女選抜 入学確約書提出期限
3	日 開寮式 教科書販売	3	水 文化の日	3	金	3	月	3	木	3	木 卒業認定会議
4	月	4	木	4	土 3年次研修旅行	4	火 開寮	4	金	4	金 教育・研究交流会 (予定)
5	火 消防訓練(予定)	5	金	5	日	5	水 開寮式	5	土	5	土
6	水	6	土	6	月	6	木 推薦選抜担当者説明会	6	日	6	日
7	木	7	日	7	火	7	金	7	月	7	月
8	金	8	月	8	水 学生集会(学生会主催)	8	土 推薦選抜	8	火	8	火 入学手続日 入学説明会・意見学会
9	土	9	火	9	木	9	日	9	水	9	水
10	日	10	水	10	金	10	月 成人の日	10	木 専攻科期末試験	10	木 進級認定会議
11	月 体育の日	11	木	11	土	11	火	11	金 建国記念の日	11	金
12	火 月曜日の授業	12	金 高専祭代休	12	日	12	水	12	土	12	土
13	水	13	土 高専祭 入試説明会(本校)	13	月 推薦及び専門実習選抜 願書受付	13	木 予備日(1~5年生) 国立高等専門学校学習到達度 試験(3年次)	13	日	13	日
14	木	14	日	14	火	14	金 推薦選抜判定結果通知	14	月 予備日(1~5年次) 専攻科期末試験	14	月
15	金	15	月 高専祭代休	15	水 定期学生会議会 (学生会主催)	15	土 専門実習選抜	15	火	15	火
16	土	16	火 TOEIC IP試験(4年次)	16	木	16	日	16	水 後学期期末試験	16	水
17	日 ロボットコンテスト九州・沖縄地区大会 地域清掃(宮野古地区と合同)(予定) (学生会主催)	17	水	17	金	17	月	17	木 学力選抜担当者説明会	17	木
18	月	18	木 TOEIC IP試験(5年次)	18	土	18	火 専門実習選抜判定会議	18	金	18	金
19	火	19	金	19	日	19	水 専門実習選抜判定結果通知 クラスマッチ(学生会主催)	19	土	19	土 卒業式 専攻科修了式
20	水	20	土	20	月	20	木	20	日 学力選抜及び帰国子女 選抜	20	日
21	木	21	日 ロボットコンテスト 全国大会	21	火	21	金 推薦選抜入学確約書 提出期限	21	月 学力及び帰国子女選抜試験採点 臨時休業日	21	月 春分の日
22	金	22	月	22	水 学生寮居室点検・清掃	22	土	22	火	22	火
23	土	23	火 勤労感謝の日	23	木 天皇誕生日	23	日	23	水 試験返却日 学力及び帰国子女選抜判定会議 専攻科修了認定会議 学生寮居室点検・清掃	23	水
24	日	24	水	24	金	24	月 学力及び帰国子女選抜 願書受付	24	木 学力及び帰国子女選抜 判定結果通知	24	木
25	月	25	木 沖縄高専フォーラム	25	土 開寮式	25	火 専門実習選抜入学 確約書提出期限	25	金 終業式	25	金 学年末休業
26	火	26	金	26	日 冬季休業 開寮	26	水	26	土 開寮式	26	土
27	水	27	土	27	月 完全閉寮	27	木	27	日 開寮	27	日
28	木	28	日	28	火	28	金	28	月 臨時休業日	28	月
29	金	29	月	29	水	29	土			29	火
30	土 県高校新人体育大会	30	火	30	木	30	日			30	水
31	日			31	金	31	月			31	木
・学生寮居室点検・清掃		・学生会長・副会長選挙 ・高専祭前に校内美化(学生会主催) ・学生寮居室点検・清掃		・校内美化(学生会主催冬季休業前) ・ツデーマーチ(学生会主催) ・冬の寮祭(寮生会) ・一斉休業(12/27・12/28)		・学生寮居室点検・清掃		・定期学生会議会(学生会主催) ・校内美化(学生会主催年度末)		・卒業式2部式(学生会主催) ・外国人学生対象第3学年入学手続き (3/10)	

教務系行事 学生系行事 学生寮行事 学生会行事